

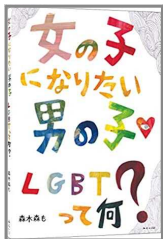
1 命のうた
ぼくは路上で生きた十歳の戦争孤児



- ① 竹内早希子/著
石井勉/絵
- ② 童心社
- ③ 1400円
- ④ 21タ020

「戦争孤児」という言葉を聞いたことがありますか？戦争で親や兄弟を失い、家をなくした子どもたちのことです。自分の力で必死に、そして精一杯生きる主人公“セイちゃん”の姿に胸を打たれます。戦争が終わって70年以上経つ今だからこそ読んでほしい作品です。

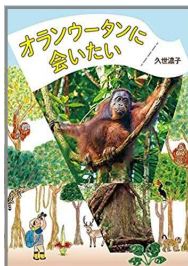
2 女の子になりたい男の子LGBT
って何？



- ① 森木森も/著
- ② みらいパブリッシング
- ③ 1300円
- ④ 36モ019

LGBT知っていますか。L（レズビアン）G（ゲイ）B（バイセクシュアル）T（トランスジェンダー）。それぞれをその人の個性としてそれぞれが自分らしく生きていけるように作者は悩んでいる人たちに率直に語っています。大人も子供も読んでほしい本です。

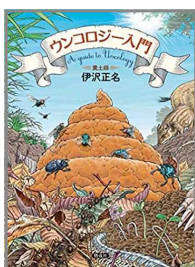
3 オランウータンに会いたい



- ① 久世濃子/著
- ② あかね書房
- ③ 1300円
- ④ 48ク020

あなたは、オランウータンとチンパンジーの違いがわかりますか？突然強く変身するオス、お母さん一人でする子育て、実は厳しい食物事情……。まもなく絶滅と言われていているオランウータンには不思議がたくさん。そんなオランウータンの世界を覗いてみませんか？

4 ウンコロジー入門



- ① 伊沢正名/著
- ② 偕成社
- ③ 1500円
- ④ 49イ020

自然が大好きな作者が作り出したウンコロジーとはウンコが作り出す生態系（エコロジー）を名付けたものです。食べ物のかすで自分に不要になったウンコは必ず誰かの役に立っていることを体験からまとめ、自然の摂理をわかりやすく説明しています。身の回りの日常に新たな発見を見出す一冊です。

5 「いただきます」を考える
大切なごはん和田んぼの話



- ① 生源寺眞一/著
- ② 少年写真新聞社
- ③ 1600円
- ④ 61シ019

わたしたちが生きるために欠かすことのできない食べ物＝ごはんをとおして世界の状況や日本の農業について考える一冊。食料自給率、飢餓、飽食など一見難しいと思われるようなことも分かりやすく述べながら、食べ物を支える産業や農業の新しい動き、農業の楽しさにもふれています。

6 希望、きこえる？
ルワンダのラジオに子どもの歌が流れた日



- ① 柴谷明子/著
- ② 汐文社
- ③ 1500円
- ④ 69サ020

アフリカの中央にある国、ルワンダ。大人向けのテレビやラジオしかないこの国で、「子ども向けのラジオ番組を作ろう！」と奮闘する日本人・明子さんのお話です。人との出会いを大事にし、困難を乗り越えながら夢を実現する明子さんの生き方に勇気をもらいます。子供たちの笑顔が印象的な一冊です。

7 ラグリマが聞こえる
ギターよびひけ、ヒロシマの空に



- ① ささぐちともこ/著
くまおり純/絵
- ② 汐文社
- ③ 1500円
- ④ 91サ020

ミオンが古い洋館で出会ったのは、怪人のようなおじいさん。怪人がギターで奏でていたのは、亡くなったパパとの思い出の曲「ラグリマ」。音楽に引き寄せられたミオンは、おじいちゃんと怪人とのつながりを知ります。世代を超えて人をつなぐのは、戦争と原爆を乗り越えた「原爆ギター」だったのです。

8 アリババの猫がきいている



- ① 新藤悦子/作
佐竹美保/絵
- ② ポプラ社
- ③ 1500円
- ④ 91シ020

人の言葉がわかるというペルシャ猫のシャイフ。飼い主アリババの留守中に預けられた店の民芸品たちとも会話ができて、その民芸品たちから、次々に繰り広げられる身の上話にシャイフは驚きます。異国からやってきた民芸品たちに耳を傾けながら、不思議な縁で結ばれていきます。

9 スイマー



- ① 高田由紀子/著
結布/絵
- ② ポプラ社
- ③ 1500円
- ④ 91タ020

水泳で勝つことにこだわりすぎて、「オレ様」になってしまう航。転校先の佐渡島で出会った個性豊かな3人と一緒に、メドレーリレーに挑戦します。時にはぶつかりあいながら、友情を深めていきます。瑞々しく描かれた彼らの物語に、胸があつくなります。

10 徳治郎とボク



- ① 花形みつる/著
- ② 理論社
- ③ 1400円
- ④ 91ハ019

大正12年生まれのおじいちゃんは、頑固で気むずかしいけれど、ボクは大好き。そんなおじいちゃんは、闘病の末に亡くなります。小学生のボクが綴る、大切な人と過ごした思い出、そして永遠の別れ。これからも、思い出たちは、心の中で静かに輝き続けるのです。

11 あおいの世界



- ① 花里真希/著
中島梨絵/装画
- ② 講談社
- ③ 1400円
- ④ 91ハ020

カナダに転校することになったあおいは、英語も話せないし、友達もいないし、不安なことばかり。しかし、お互いの個性を大切に
するカナダで、色々な人と出会い、経験を重ね、特別な友達アディソンとも出会い、あおいの不安は少しずつ小さくなるのでした。

12 うちの弟、どうしたらいい？



- ① エリナー・クライマー/作
小宮由/訳
- ② 岩波書店
- ③ 1400円
- ④ 93ク019

「弟を頼むわね。」そう言い残して母はいなくなってしまう。どうして面倒見なくちゃいけないの？それでも祖母との生活の中で荒れていく弟が心配でならないアニー。そんな孤独な悩みを受け入れてくれたのは弟の担任でした。信頼できる人と出会い、アニーは姉として成長していきます。

13 キャラメル色のわたし



- ① シャロン・M.ドレイパー/作
横山和江/訳
- ② 鈴木出版
- ③ 1600円
- ④ 93ト020

離婚してしまった黒人のパパ、白人のママの間に生まれたイザベラは、自分自身の存在意義について悩んでしまいます。そんな中ピアノが得意なイザベラはとても楽しみにしていた演奏会の当日、誤って警察に拘束されてしまいます。人種差別の問題について悩む主人公の気持ちがよくわかる作品です。

14 おいで、アラスカ！



- ① アンナ・ウォルツ/作
野坂悦子/訳
- ② フレーベル館
- ③ 1400円
- ④ 94ウ020

12歳の少女パーケルと13歳の少年スフェンが交互に、新学期の二週間のあいだに起こる出来事を語る構成となっています。パーケルが飼っていた「アラスカ」をある事情からスフェンが飼うことに。アラスカを取り戻そうと決心したパーケルはスフェンのうちに忍び込みますが……。

15 桜の木の見える場所



- ① パオラ・ペレッティ/作
関口英子/訳
- ② 小学館
- ③ 1500円
- ④ 97へ019

ある日、9歳のマファルダは、少しずつ視力が失われる難病と診断されてしまいます。目が見えなくなるってどういうことだろう？マファルダは、やっておきたいことのリストを作り始めます。少しずつ見えなくなっていくことの怖さを受け入れ、克服していく姿が少女の一人称で語られています。